

# TANITA

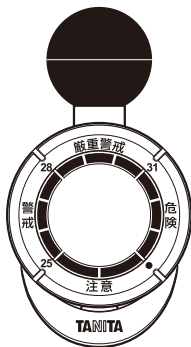
## 取扱説明書

保証書付き

黒球式熱中症指数計

熱中アラーム

TT-562



熱中症注意レベルの出典：  
日常生活における熱中症予防指針（日本生気象学会）

※本書に記載されている  
イラストはイメージです。

## もくじ

●TT-562について/正確に測るために	2
●熱中症予防指針（日本生気象学会出典）	3
●安全上のご注意	4
●使用上のご注意	5
●各部の名称	6
●電池を入れる/交換する	7
●使いかた.1 表示の見方	9
●保証書	10
●アフターサービスについて	11
●使いかた.2 つり下げ用アタッチメント	12
バックライトの使いかた	13
熱中症予防指針と警告アラームの種類	14
警告アラームの音量切替方法	14
測定範囲外の表示について	15
電源OFFの方法	15
●いろいろな装着方法	16
●故障かなと思ったら	18
●仕様	19

## お願い

本器は誤った使いかたをしますと、重大な事故につながるおそれがあります。  
この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。  
また、必要なときにはすぐに取り出せるよう、身近に大切に保管してください。

# TT-562について

本器は、熱中症を予防できる商品ではありません。ご使用にあたっては、本器の仕様をご理解のうえ、熱中症対策の目安としてください。

なお、精度の誤差などによる二次災害については、弊社では一切の責任は負えませんのでご了承ください。

- ・屋外でも屋内でも使用可能

普通の温度計では、日射や地面からの照り返しによる熱（輻射熱：ふくしゃねつ）を測定できません。そのため炎天下では正確にWBGT（本書P.9参照）が求められません。

本器は黒球を搭載して日射や輻射熱を測定しているため、屋内外問わず炎天下でもWBGTを測定することができます。

- ・4種類の警告アラーム音で、注意レベルをお知らせ

電源ON後、WBGT20℃以上の場合、10分間隔でWBGTの値に応じた注意レベルの警告アラーム音が鳴ります。（本書P.14参照）

- ・電源OFF機能付き

使用しないときは電源をOFFすることができ、節電になります。（本書P.9参照）

## 正確に測るために

- ・首や腰につり下げる、または三脚やヘルメットに装着してご使用ください。屋外（日射時）では黒球がなるべく陰にならないようにしてご使用ください。

※陰になると黒球温度が下がり、正確にWBGTが測れません。

- ・ベンチの上や地面（コンクリートや芝生の上など）に直に置いたままでの使用はしないでください。

※照り返しの影響で「周囲温度」等が通常より高くなり正確にWBGTが測れません。

# 熱中症予防指針(日本生気象学会出典)

## ●日常生活における熱中症予防指針

WBGTによる 温度基準域	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
<b>危険</b> (31℃以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
<b>厳重警戒</b> (28~31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
<b>警戒</b> (25~28℃※)	中等度以上の生活活動で おこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
<b>注意</b> (25℃未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※(28~31℃)及び(25~28℃)については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。

## ●注意すべき生活活動強度の目安

軽い	中等度	強い
休息・談話 食事・身の回り 楽器演奏 裁縫(縫い、ミシンかけ) 自動車運転 机上事務 乗物(電車・バス立位) 洗濯 手洗い、洗顔、歯磨き 炊事(料理・かたづけ) 買い物 掃除(電気掃除機) 普通歩行(67m/分) ストレッチング ゲートボール*	自転車(16km/時未満) 速歩(95~100m/分) 掃除(はく・ふく) 布団あげおろし 体操(強め) 階段昇降 床磨き 垣根の刈り込み 庭の草むしり 芝刈り ウォーキング(107m/分) 美容体操 ジャズダンス ゴルフ* 野球・ソフトボール*	ジョギング サッカー テニス 自転車(約20km/時) リズム体操 エアロビクス 卓球 バドミントン 登山 剣道 水泳 バスケットボール 縄跳び ランニング(134m/分) マラソン

※野球・ソフトボールやゴルフ、ゲートボールは、活動強度は低いけど運動時間が長いので要注意





参照：日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.4」(2022)より

## お知らせ

●熱中症対策の情報(予防方法、対処方法など)については、「環境省熱中症予防情報サイト」(<https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt.php>)を参照ください。

# 安全上のご注意

本書では、ご使用になる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、お守りいただきたいことを次のように説明しています。本文をよくお読みいただき、本器を正しくご使用ください。

 <b>警告</b>	この表示の欄は「死亡または重傷※ <sup>1</sup> を負う可能性のある」内容です。		
 <b>注意</b>	この表示の欄は「傷害※ <sup>2</sup> を負うおそれまたは物的損害※ <sup>3</sup> が発生するおそれのある」内容です。		
 <b>禁止</b>	してはいけない「禁止」内容です。	 <b>必ず守る</b>	「必ず守っていただく強制」内容です。
<b>お願い</b>	製品を最良の状態を保つために守っていただきたい内容です。		
<b>お知らせ</b>	本器の使用に関連して、お客様に知っていただきたい補足事項です。		

※<sup>1</sup>：重傷とは失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

※<sup>2</sup>：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

※<sup>3</sup>：物的損害とは、家屋・家財などへの拡大損害をさします。

## 警告



禁止

- ご使用前およびご使用中に本器に異常が確認されたら使用しない  
→異常があるままご使用になると、けがや事故が発生するおそれがあります。
- 本器や電池を加熱しない  
→本器の変形や電池の発火により、けがや火災のおそれがあります。
- 乳幼児や子供の手が届くところに保管しない  
乳幼児や子供だけで使用させない  
→電池などの小さな部品を飲み込み、窒息するおそれがあります。  
また感電やけがをするおそれがあります。

## 注意



禁止

- 分解や改造、修理をしない  
→けがや感電のおそれがあります。
- 本器に強い衝撃を与えない  
→本器を落とす、または本器に物を落とすなど、強い衝撃を与えないでください。  
本器が破損して、けがをするおそれがあります。
- ネックストラップやカラビナを持って振り回さない  
→当たってけがをするおそれがあります。  
→破損するおそれがあります。

# 使用上のご注意

## 取り扱い、保管について



禁止

- 高温(気温50℃以上)になる場所(密閉された車内など)、ストーブなどの暖房器具の近くでは使用しない  
→本器の使用温度範囲は0～50℃です。範囲を超えて使用した場合は表示が見えなくなったり、故障したりするおそれがあります。
- 雨の日、湿気の多い所・粉じんのある所・水のかかる所では使用しない
- 水洗いはしない  
→防じん・防滴仕様ではありませんので、水やほこりが入ると故障のおそれがあります。
- 高濃度の揮発性有機化合物、酸、アルカリ、腐食性ガス、還元性ガス、シリコン、スプレーなど強いにおいのある環境下で使用、保管しない  
→故障のおそれがあります。  
使用しないときはガスなどの影響を防ぐため、付属の保管袋に入れて保管してください。
- 保存環境を超える高温、低温、高湿、低湿で長時間の使用、保管しない  
→正確な測定ができなくなるおそれがあります。  
保存環境を超えた状態で長時間置かれた場合は十分換気がされた、保存が可能な環境に移動して、12～24時間程度放置してから使用してください。
- 通信機能付きの機器、電磁波を発生する家電製品、および強力な電磁波のある環境では使用しない  
→本器が誤動作して電池寿命に影響を及ぼすおそれや、正確に測定できないおそれがあります。  
→電子レンジやワイヤレス通信機器、および電線、発電所、電波塔の近くなどから可能な限り遠くに離れてご使用ください。



必ず守る

- 電源を入れて表示値が安定するまで10分以上お待ちください
- 地面から高さ90(腰)～180cm(ヘルメット)で使用してください  
→90cmよりも低すぎたり、180cmよりも高すぎたりすると、WBGTの誤差が大きくなるおそれがあります。
- 三脚などを使う場合、十分な強度のあるものにしっかりと固定してください  
→転倒などによる、けがや故障のおそれがあります。
- 風速が0.3m/s未満、または3m/sを超えると正しく測定できないおそれがあります

## お手入れについて



必ず守る

- アルコールや熱湯、シンナーやベンジンなどは使用しない  
→故障や部品の割れ・変色などのおそれがあります。  
本体の汚れは柔らかい布で拭いてください。

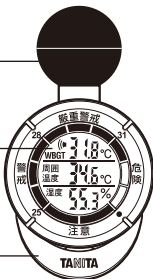
# 各部の名称

## 〈表面〉

黒球

表示部

センサー  
カバー



## 〈側面〉

音量切替スイッチ  
※バックライトも  
共通スイッチ

つり下げ用  
アタッチメント  
(付属品)

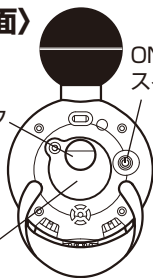
カラビナ  
(付属品)

## 〈裏面〉

ON/OFF  
スイッチ

フック

電池  
フタ



三脚  
取り付け用  
電池フタ  
(付属品)

ネックストラップ  
(付属品)

落下防止ストラップ

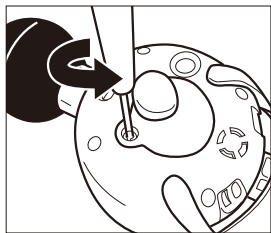
ヘルメット  
取り付け用  
電池フタ  
(付属品)

## 付属品

- ☒取扱説明書(本書)保証書付き
- ☐つり下げ用アタッチメント (ホワイト、ブルー各1本)
- ☐カラビナ
- ☐ネックストラップ (ナスカン付き)
- ☐三脚取り付け用電池フタ
- ☐ヘルメット取り付け用電池フタ (落下防止ストラップ付き)
- ☐ドライバー
- ☐お試し用電池: CR2032コイン形リチウム電池

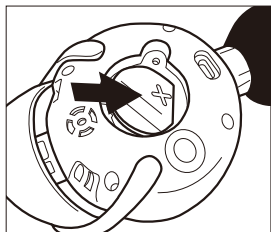
※不足しているものがありましたら、弊社お客様サービス相談室までご連絡ください。本書P.10参照

# 電池を入れる／交換する



- ① 付属のドライバーまたは市販の小型ドライバーを使って、電池フタのネジを時計回りと逆方向に回して外す

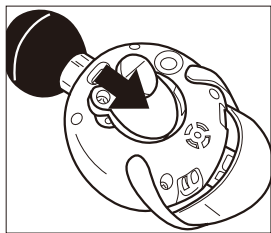
※ネジは電池フタから外れません。



- ② 電池(CR2032)を「**+**」側を上にして、矢印の方向から入れる

※電池挿入後、ピィというブザー音と同時に表示画面は、電源ON状態(WBGT、周囲温度、湿度を表示)となります。

※電池を取り出すときは、付属のドライバーまたは細い棒などで取り出してください。



- ③ 電池フタのツメを本体の凹に合わせ電池フタを元の位置に取り付けネジを時計回りに締める

●三脚への取り付けまたはヘルメットに装着する場合、付属の三脚取り付け用電池フタまたはヘルメット取り付け用電池フタをご使用ください。

本書P.16、P.17「いろいろな装着方法」参照ください。

## お願い

長期間(3カ月以上)ご使用にならない場合、電池を取り出して保管してください。

電池が消耗すると、表示画面に「」が表示されます。速やかに新しい電池(CR2032)と交換してください。

### お願い



禁止

- 指定の電池(CR2032)以外は使用しない  
→故障のおそれがあります。



必ず守る

- 電池は $\oplus$  $\ominus$ の方向を正しく入れる  
→故障するおそれがあります。  
(長期間ご使用にならない場合は電池を本器から取り外してください。)

### 警告



禁止

- 電池は乳幼児の手の届くところに置かない  
→誤飲のおそれがあります。万一、電池を飲み込んだ場合には直ちに医師に相談してください。

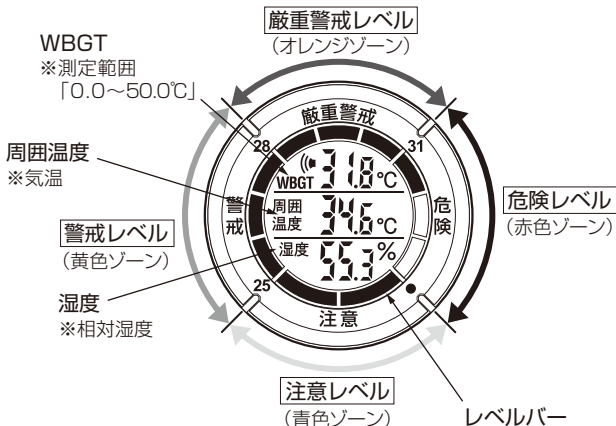
### お知らせ

- 付属の「お試し用電池」は工場出荷時に納められたものですので、寿命が短くなっている場合があります。
- 使用済み電池はお住まいの市区町村の廃棄方法にしたがってください。
- 使用済みリチウム電池を捨てる場合は、必ず端子 $\oplus$  $\ominus$ をセロハンテープなど粘着性の絶縁テープで覆ってください。



# 使いかた.1 表示の見方

- ・電池挿入後、次の表示になります。
  - ・日常生活における熱中症予防指針の4段階（「注意」「警戒」「厳重警戒」「危険」）を11のレベルバーで表示します。
- ※レベルバーは、WBGTが20.0℃以上で表示します。



## WBGTについて

WBGT(Wet Bulb Globe Temperature、湿球黒球温度)とは、暑さの厳しさの程度を示す暑熱指数であり、暑さ指数とも言われています。気温だけでなく、汗のかき方に関係する湿度、日射・照り返しなどの輻射熱(ふくしゃねつ)を取り入れて計算される暑熱指数のことで、乾球温度(周囲温度)、湿球温度(湿度に関係)と黒球温度(輻射熱)の値を使って計算します。単位は(℃)です。

**屋外で日射のある場合**  $0.7 \times \text{湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$

**室内で日射のない場合**  $0.7 \times \text{湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}$

本器では、乾球温度は温度センサーで測定し、湿球温度は湿度センサーで測定した相対湿度と乾球温度より演算して求めています。黒球温度は直径33mmの黒球で測定した値より標準の直径150mmの黒球温度に換算しています。また、本器では、乾球温度(周囲温度)と黒球温度の差を利用して「屋外で日射がある場合」または「屋内で日射のない場合」を推定し、自動で判断してWBGTを表示しています。

# 保証書

販売店様へ

ご購入時に貴店にて、保証書の所定事項(お買い上げ日、販売店様欄に捺印)をご記入のうえ、お客様にお渡しください。

お客様へ

本保証書は、無料修理規程により無料修理をお約束するものです。お買い上げ日から以下保証期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、弊社お客様サービス相談室に修理をご依頼ください。

※本保証書にお買い上げ日の記入が無い場合は、購入証明書もあわせてご提示ください。

※お客様の個人情報、修理完了品の発送にのみ使用させていただきます。この間、お客様の個人情報は、第三者が不当に触れることのないよう、弊社規程に基づき、責任を持って管理いたします。

品 名	熱中アラーム TT-562		
保証期間	本体 お買い上げ日より1年		
お買い上げ日	年	月	日
お客様	お名前 様		
	ご住所		
	お電話 ( )		
販売店	店名・所在地		
	電 話 ( )		



株式会社 **タニタ**

本社・お客様サービス相談室 〒174-8630 東京都板橋区前野町1-14-2

ホームページアドレス <https://www.tanita.co.jp/>

お問い合わせ先

フリー  
ダイヤル

 **0120-133821**

携帯電話からはフリーダイヤルにつながりません。  
携帯電話からのお問い合わせはナビダイヤルをご利用ください。

ナビ  
ダイヤル

 **0570-783551**

通話料はお客様負担となりますのでご了承ください。

受付時間 / 9:00～17:00(祝日を除く月～金)

タニタ サービスセンター 〒014-0113 秋田県大仙市堀見内字下田茂木添28-1

## アフターサービスについて

### 1、保証書について

保証内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。なお、販売店によるお買い上げ日の記入に代替して、購入証明書（購入時のレシートなど）はお買い上げ日を証明するものになりますので、保証書とあわせて大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年です。

### 2、修理を依頼されるとき

- ・保証期間中は、弊社お客様サービス相談室にご連絡のうえ、本器と保証書をお送りください。保証書にお買い上げ日の記入が無い場合は、お買い上げ日を証明できる購入証明書（購入時のレシートなど）をあわせてお送りください。
- ・保証期間が過ぎているときは、弊社お客様サービス相談室にご相談ください。修理によって本器の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

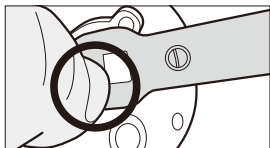
### 3、ご不明な点は弊社お客様サービス相談室にお問い合わせください。

#### 〈無料修理規程〉

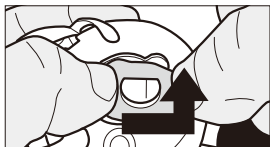
- 1、取扱説明書などの注意書きに従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には無料修理をさせていただきます。
- 2、ご贈答品などで購入証明ができない場合は、弊社お客様サービス相談室へご相談ください。
- 3、保証期間内でも次の場合には、有料修理になります。
  - イ、使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および破損
  - ロ、お買い上げ後の落下などによる故障および破損
  - ハ、付属品、消耗品の故障および交換
  - ニ、火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および破損
  - ホ、一般家庭以外に使用された場合の故障および破損
  - ヘ、保証書などでお買い上げ日、お客様名、販売店名を証明できない場合、あるいは誤った情報が提示された場合
- 4、本規程は、日本国内においてのみ有効です。本器を日本国外で使用する場合、無料修理を含めたすべての対応の対象外となります。
- 5、本規程は、定められた期間や条件のもとで無料修理をお約束するものであり、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間が過ぎている場合の修理については、弊社お客様サービス相談室にお問い合わせください。

## 使いかた.2 つり下げ用アタッチメント

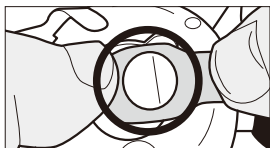
### ●つり下げ用アタッチメントの取り付け方法



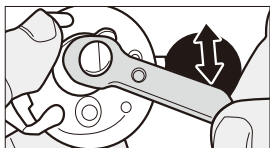
①つり下げ用アタッチメントの四角い穴を電池フタのフックに合わせる。



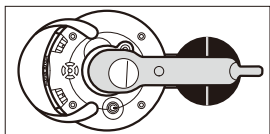
②左手親指でつり下げ用アタッチメントの根元をしっかりと押さえる。



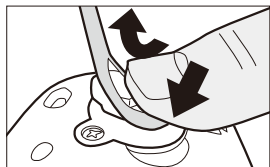
③右手でつり下げ用アタッチメントを持って→方向に引きながらフックへはめ込む。



④完全にフックに入っているかを確認するためにつり下げ用アタッチメントを左右に動かしてから黒球の裏側に来る位置に合わせる。



## ●つり下げ用アタッチメントの取り外し方法

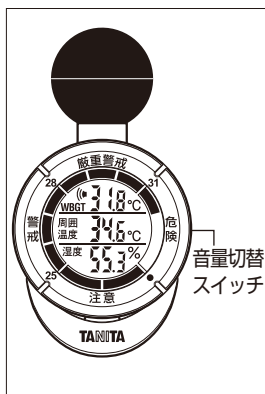



- ①つり下げ用アタッチメントが付いている電池フタのフックを親指で押さえ、つり下げ用アタッチメントを上側に引っ張って外す。

### ⚠ 注意

つり下げ用アタッチメントを必要以上に引っ張らないでください。切れることがあります。また、けがをしないようにご注意ください。


## ●バックライトの使いかた



音量切替スイッチ(  )を1回押すとバックライトが約5秒間点灯します。

※昼間の明るいときはバックライトの点灯が確認できない場合があります。

※バックライトの使用頻度が多い場合、電池寿命が短くなります。

※表示画面に「」が表示された場合バックライトは点灯しません。新しい電池と交換してください。

電池交換は、「電池を入れる」本書P.7を参照ください。

## ●熱中症予防指針と警告アラームの種類


電源ON時より10分間隔で、そのときの熱中症予防指針（4段階）の状態にあった警告アラームが鳴ります。

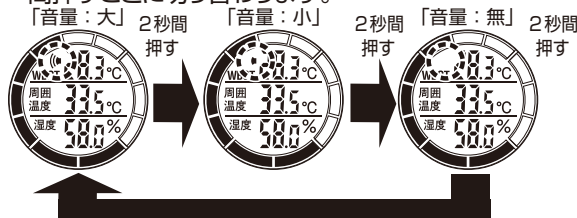
※警告アラームは、WBGTが20.0℃未満では鳴りません。


熱中症予防指針	警告アラームの種類
危険	「ピー」と3秒間連続音後1秒休止の繰り返しで約15秒間鳴ります。
嚴重警戒	「ピーピー-----ピー」約15秒間鳴ります。
警戒	「ピーピーピーピー」×3回約3秒間鳴ります
注意	「ピーピー」と約1秒間鳴ります

## ●警告アラームの音量切替方法

・音量は「大」「小」「無」の3段階で切替できます。

・音量切替スイッチ(  )を約2秒間押すごとに切り替わります。



・警告アラームは音量切替スイッチ(  )を押すと止まります。

●「危険」レベルになると音量「小」または「無」の設定にかかわらず、常に音量「大」で警告アラームが鳴ります。

※本器を温度が高くなる屋内や車内などに放置されると「危険」レベルになり、警告アラームが鳴り続ける場合があります。無人で放置される場合は、電源を「OFF」にしてください。（本書P.15参照）

## ●測定範囲外の表示について

1) WBGTが測定範囲(0.0℃～50.0℃)を超えた場合、下記のようになります。

① 0.0℃未満:「0.0」が点滅表示します。

② 50.0℃を超える:「50.0」が点滅表示します。

2) 周囲温度が測定範囲(0.0～50.0℃)を超えた場合、下記のように表示します。



※周囲温度が測定範囲を超えた場合は「0.0」または「50.0」の点滅表示となり、湿度表示は「...」になります。

0℃未満の場合 50℃を超える場合

3) 湿度が測定範囲(20%～90%)を超えた場合、下記のように表示します。



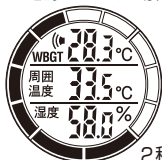
※湿度の表示が「20.0」または「90.0」の点滅表示します。WBGTは表示されますが、「WBGT」の値は参考値としてください。

20%未満の場合 90%を超える場合

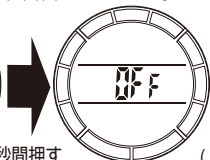
## ●電源 OFF の方法

ON/OFFスイッチ(Ⓢ)を約2秒間押すと[OFF]が表示され、電源OFFになります。

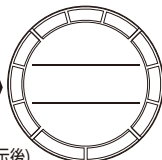
※電源OFFした場合、警告アラームは鳴らなくなります。



2秒間押す



(1秒表示後)



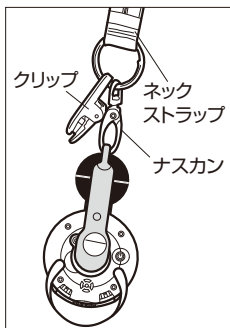
電源ONする場合は、ON/OFFスイッチを約2秒間押します。  
⇒「OFF」を約1秒間表示後電源ONになります。

# いろいろな装着方法



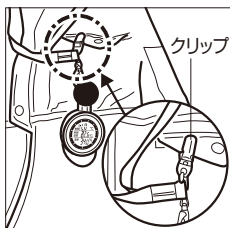
## 1) 腰へ下げる

カラビナでズボンのベルト通しなどにつり下げる

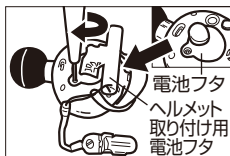


## 2) 首に下げる

① ネックストラップのナスカンをつり下げ用アタッチメントに取り付けて首から下げる。



② 製品が安定するようにネックストラップに付いているクリップで、服に止める。

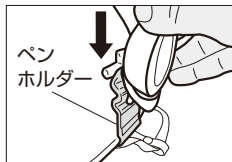


## 3) ヘルメットへの装着

① 電池フタをヘルメット取り付け用電池フタに交換する。

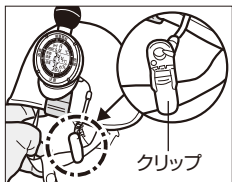
※ヘルメットとペンホルダーは付属していません。





## ②ヘルメットに装着されている別売のペンホルダーに、本体を差し込む。

※ペンホルダーは、「株式会社 谷沢製作所」のペンホルダーに対応しています。他社のペンホルダーには、取り付けできない場合があります。



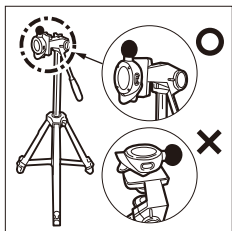
## ③落下防止ストラップのクリップでヘルメットの耳ひもに止める。

※落下防止ストラップのクリップで止めないと、落下して本体が破損するおそれがあります。



## 4)三脚への取り付け

### ①電池フタを三脚取り付け用電池フタに交換する。



### ②三脚に取り付ける。

※三脚への取り付け姿勢は、黒球が上になるようにセットしてください。黒球が横向き(表示面が上)になっていると「周囲温度」等が通常より高くなり正確にWBGTが測れません。


※三脚は付属していません。

※三脚に取り付け時は、三脚の取扱説明書をお読みください。



## 5)フックなどにつり下げる (室内で使用される場合)

# 故障かなと思ったら

 マークが点灯した	電池が消耗しています。速やかに新しい電池(CR2032)と交換してください。 本書P.7とP.8参照
電池を入れたのに何も表示しない	電池の向きはあっていますか？ 電池の⊕⊖の向きをお確かめください。 本書P.7参照
	電池が消耗しています。速やかに新しい電池(CR2032)と交換してください。 本書P.7参照
警告アラーム音を消したい。または小さくしたい	「危険」レベル以外では、警告アラームを音量「小」または「無」に切り替えできます。 本書P.14参照
レベルバーが表示されない	レベルバーは、WBGTが20.0℃以上で表示します。
警告アラームが鳴らない	警告アラームは、WBGTが20.0℃未満では鳴りません。 本書P.14参照
電源を消したい	ON/OFFスイッチ2秒間押すと電源をOFFできます。 本書P.15参照
「0.0」、「50.0」などの数値が点滅になった	測定範囲外では、「0.0」、「50.0」などの数値が点滅表示になります。 本書P.15参照
表示される周囲温度が高く感じる	身に付けた場合、吊り下げ位置によっては、体温の影響で周囲温度が周囲の気温より高く表示されることがあります。
電池の消耗が速い	お客様の使用環境条件により、電池寿命が短くなることがあります。 ・警告アラーム(危険レベル)が鳴る回数が多い場合 ・バックライトを頻繁に使った場合

# 仕様

表示方式		液晶表示
日常生活における熱中症予防指針		4段階11レベル (「注意」「警戒」「嚴重警戒」「危険」)
規格		JIS B 7922:2023 準拠
精度区分		クラス2
WBGT	測定範囲	0.0～50.0℃ 0.1℃単位(0.0℃未満または50.0℃を超えると点滅)
	精度	15.0～40.0℃±2.0℃
周囲温度 (気温)	測定範囲	0.0～50.0℃ 0.1℃単位(0.0℃未満または50.0℃を超えると点滅)
	精度	0.0～50.0℃ ±0.6℃
湿度 (相対湿度)	測定範囲	20.0～90.0% 0.1%単位(20.0%未満または90.0%を超えると点滅)
	精度	20.0～90.0%±5.0%
黒球温度	測定範囲	0.0～60.0℃(表示なし)
	精度	0.0～60.0℃ ±0.6℃
WBGT・周囲温度・湿度測定間隔		約30秒に1回
使用範囲	気温	0～50℃
	相対湿度	20～90%(結露なきこと)
	風速	0.3～3m/s
保存環境	気温	0～50℃
	相対湿度	20～90%(結露なきこと)

警 告 アラーム	アラーム 時 間	最長約15秒(各注意レベルで音の鳴り方が異なります)
	音 量	3段階:75dB(大)、65dB(小)、無
バックライト機能		点灯時間:約5秒
電 源		3VDC(CR2032コイン形リチウム電池)
電 池 寿 命		約3カ月(1日4時間使用時)
寸 法 ・ 質 量		約幅58×高さ108×奥行36mm 約65g(電池、つり下げ用アタッチメント、カラビナ含む)
主 な 材 質		黒球、本体：耐熱 ABS レンズ：PMMA センサーカバー：PP
付 属 品		お試し用電池 (CR2032コイン形リチウム電池)、 つり下げ用アタッチメント (ホワイト、ブルー各1本)、 カラビナ、ネックストラップ(ナスカン付き)、 ドライバー、三脚取り付け用電池フタ、 ヘルメット取り付け用電池フタ (落下防止ストラップ付き)、 取扱説明書(本書)保証書付

※デザインおよび製品仕様は予告なく変更することがあります。

※本器の破棄について

お住まいの市区町村の定めに従って、電池を外してから処分してください。

廃棄について不明な点がある場合は、お近くの自治体にご相談ください。

小型家電リサイクル法に基づき、お住まいの市区町村または、認定事業者による回収にご協力ください。

- ・日常生活における熱中症予防指針は日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.4」(2022)から引用しています。